

## エチレンセンター 11社の収益状況について (平成19会計年度)

平成20年6月10日  
製造産業局化学課

平成19年度のエチレン生産量は、定期修理及び設備トラブルがあったものの、国内景気の緩やかな拡大基調の継続や中国を中心とするアジア地域の景気拡大を背景に、各エチレンセンターとも高稼働が継続し、773万8千トン（対前年同期比2.9%増）と増加した。

平成19会計年度のエチレンセンター11社の石油化学部門の売上高は、ナフサ等の原料価格の高騰による影響はあったものの、国内外の需要が堅調に推移したことによる好調な製品市況により、5兆2,744億円（対前年同期比16.3%増）と大幅な増加となった。

一方、経常利益は、売上高の増加や合理化努力によるコスト削減があったものの、高騰するナフサ等の原燃料価格を製品価格に転嫁しきれず、利益が圧縮されたことにより、2,108億円（対前年同期比▲22.6%減）となった。

この結果、売上高経常利益率は4.0%と前年同期に比べ2.0ポイントの減少となった。

### エチレンセンター11社の石油化学部門の収益推移（単独ベース）

（単位：億円）

年度		14	15	16	17	18	19
石油化学部門	売上高 [億円] (前年同期比:%)	25,948 (+8.2)	27,478 (+5.9)	34,199 (+24.5)	39,634 (+15.9)	45,365 (+14.5)	52,744 (+16.3)
	営業利益 [億円] (前年同期比:%)	613 (+190.4)	709 (+15.7)	2,156 (+204.1)	1,770 (-17.9)	2,455 (+38.7)	1,900 (-22.6)
	経常利益 [億円] (前年同期比:%)	431 (+473.4)	654 (+51.6)	2,132 (+226.0)	1,753 (-17.8)	2,725 (+55.4)	2,108 (-22.6)
	売上高経常利益率 (%)	1.7	2.4	6.2	4.4	6.0	4.0
全社	売上高 [億円] (前年同期比:%)	38,236 (+6.1)	40,148 (+5.0)	47,985 (+19.5)	54,930 (+14.5)	61,927 (+12.7)	69,530 (+12.3)
	営業利益 [億円] (前年同期比:%)	1,319 (+110.2)	1,369 (+3.8)	2,963 (+116.4)	2,557 (-13.7)	3,448 (+34.8)	2,298 (-33.3)
	経常利益 [億円] (前年同期比:%)	1,186 (+86.8)	1,322 (+11.5)	3,111 (+135.3)	2,693 (-13.4)	4,059 (+50.7)	2,721 (-33.0)
	売上高経常利益率 (%)	3.1	3.3	6.5	4.9	6.6	3.9

（平成19年度集計対象）

出光興産（株）＜石油化学部門＞、大阪石油化学（株）、山陽石油化学（株）昭和電工（株）、新日本石油（株）＜石油化学部門＞、住友化学（株）、東ソー（株）、東燃化学（株）、丸善石油化学（株）、三井化学（株）、三菱化学（株）

【参考】

エチレンセンターの石油化学部門の収益推移（連結ベース）

（単位：億円）

年度		14	15	16	17	18	19
石油化学部門	売上高 [億円] (前年同期比:%)	36,025 (+9.9)	37,542 (+4.2)	46,386 (+23.6)	55,179 (+19.0)	63,184 (+14.5)	72,364 (+14.5)
	営業利益 [億円] (前年同期比:%)	1,236 (+92.2)	1,380 (+11.7)	3,338 (+141.9)	2,946 (-11.7)	3,856 (+30.9)	2,973 (-22.9)
	売上高営業利益率 (%)	3.4	3.7	7.2	5.3	6.1	4.1

注) 連結対象会社の変更等があるので、前年度と単純な比較はできない。

（平成19年度集計対象）

旭化成（株）＜ケミカルズ部門＞、出光興産（株）＜石油化学製品部門＞、昭和電工（株）＜石油化学部門＞、新日本石油（株）＜石油化学製品部門＞、住友化学（株）＜石油化学部門＞、東ソー（株）＜石油化学部門＞、東燃ゼネラル（株）＜石油化学製品部門＞、丸善石油化学（株）、三井化学（株）＜基礎化学品、機能材料部門＞、三菱化学（株）＜石化部門＞